

広報誌



Miyake Medical Institute Group

一般財団法人三宅医学研究所

みやけ通信



vol. 58 2018.7

特集 | 新しいドクターが仲間入り!!

〈三宅リハビリテーション病院 脳神経内科 池田 和代〉

言語聴覚士という仕事を知っていますか? 〈天神前通所〉

脳神経内科外来が始まります!! 〈三宅リハビリテーション病院〉

新入職員紹介 〈法人事務〉

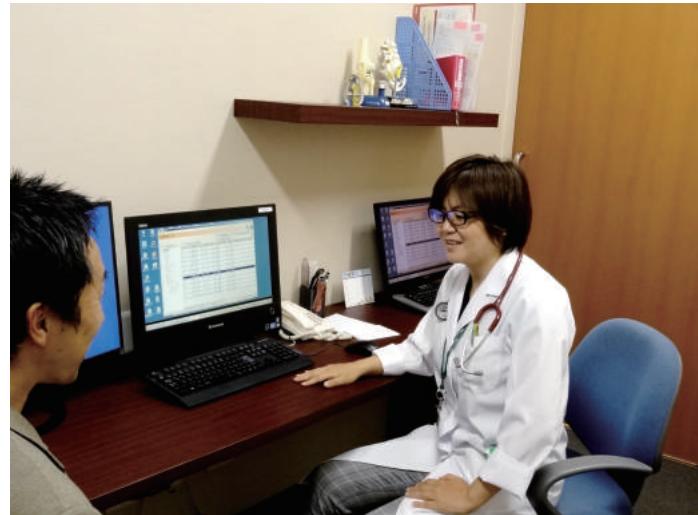
連載 vol.20 サラマンダーをのぞいてみよう! 〈健康増進施設サラマンダー〉

通所だより/本当の自立支援とは・安全に入浴をするために 〈通所事業課〉

連載⑥/訪問リハビリテーションの現状と今後 〈訪問看護ステーションみやけ〉

患者さまのQOL向上のために 常に進歩し続ける脳神経内科分野

このたび6月より入職しました脳神経内科の池田です。私は2002年に香川医科大学を卒業後、主に香川大学医学部附属病院にてパーキンソン病などの神経変性疾患、多発性硬化症などの神経免疫疾患を中心に研鑽を重ねてきました。脳神経内科とは脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気を専門にみる内科で、今まででは神経内科という名称でした。しかし、科の名称が精神科や心療内科といった精神的な疾患をみる診療科と混同されやすいため、今年度より日本神経学会が脳神経内科という名称への変更を決定し、脳や神経の病気を診る内科医として広く国民のみなさまへの理解を広めることになりました。



6月18日より池田先生による脳神経内科の外来診療が始まりました。

- ◎ 脳神経内科が診療する主な症状：筋肉の脱力や麻痺、しびれ、めまい、歩きにくさ、ふらつき、手足の動かしにくさ、ふるえ、しゃべりにくさ、むせ、もの忘れ、ひきつけ、頭痛など
- ◎ 脳神経内科が診療する主な病気：脳血管障害、神経変性疾患（パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、認知症など）、神経免疫疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症など）、末梢神経障害（ギラン・バレー症候群など）、筋疾患（筋ジストロフィーなど）、脳炎・髄膜炎、片頭痛、てんかんなど

脳神経内科の病気は、ひと昔前までは「治らない」「原因が分からない」といったイメージがありました。近年では神経難病に対する新しい治療法の開発、新たな疾患概念の発見、画像診断の精度向上など、脳神経内科分野は常に進歩し続けています。香川県においては、若年者における神経免疫疾患の増加、高齢化による脳血管障害・パーキンソン病などの変性疾患や認知症などの増加がみられ、脳神経内科の担う役割は増えることが予想されます。神経疾患には、長期間にわたり治療やリハビリを続けることが大切な病気、回復するまでに月単位の治療やリハビリが必要な病気などがあり、患者さまのQOL向上のためには医師・看護師・リハビリ・ソーシャルワーカー・介護師など多職種連携によるチーム医療がとても大切であると思います。

香川県では神経疾患の患者さまに対する早期～回復期を通じたリハビリや、自宅や地域への復帰を支援する医療の提供はまだまだ不足していると感じています。今後は、患者さま一人ひとりが希望する生活を長く安心して送るための医療を目標にチームの一員として力を尽くしたいと思います。
何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 専門
脳神経内科

■ 所属学会
日本内科学会
日本神経学会
日本神経治療学会
日本自律神経学会

■ 認定医・専門医
神経内科専門医・指導医
総合内科専門医



脳神経内科医
池田 和代

言語聴覚士という仕事を知っていますか？

天神前通所

言語聴覚士とは、うまく話せない・話が理解できない・文字が読めないなどといった「言語障害」や、声が出にくいなどといった「音声障害」、上手く噛めない・うまく飲み込めないなどの「嚥下障害」、高次脳機能障害により他に注意が向いて気が散りやすくなった（注意力）・名前や日付が覚えられず、何度も同じことを尋ねる（記憶力）といった症状などに対して評価や検査を行い、症状に対して訓練や指導、助言、など支援を行っています。

“食べること”や“話すこと”などは日常生活を送るために欠かすことのできないものであり、この能力が低下すると生活に大きな影響を与えます。しかし、このような障害は見た目では分からず、理解され難いものです。

日常生活・社会生活がより楽しく、安心したものとなるよう、環境調整も行いながらフォローさせて頂きます。

現在、天神前通所リハビリテーションセンターには4名の言語聴覚士が在籍しています。

落ち着いた空間で安心してお話ししができるよう、個室にて対応させていただいております。

気になる症状がみられる方は御気軽にご相談下さい。



脳神経内科外来が始まります!!

三宅リハビリテーション病院



診察時間 午前 8:30 ~ 12:30
午後 2:00 ~ 5:00

平成30年6月18日より

		月	火	水	木	金	土
整形外科	午前	鳥越	三宅(信)	中嶋	鳥越	中嶋	外来 担当医
	午後	手術	三宅(信)	中嶋	鳥越 要予約	手術	
脳神経内科	午前	—	—	池田	—	—	—
	午後	池田	—	—	—	—	—
脳神経外科	午前	—	—	—	—	—	田宮 (要予約・不定期)
	午後	—	—	—	—	—	—

新入職紹介

new employee Introduction

法人事務

平成30年5月～平成30年7月入職
よろしくお願いします



看護師
佐藤 寿美



看護師
藤本 奈歩



総務
池上 真理子



保育士
柴田 起栄



保育補助
山下 輝子



表紙写真

表紙の写真は、華道部の活動の様子です。季節にあったお花を調達し、皆様の癒しになれるような環境作りを目指してお花を生けています。当院にご来院の際は、ぜひご鑑賞ください。

(華道部)

サラマンダーで新しく「ボディケアプログラム」が始まりました！これまでパーソナルストレッチとして提供していたサービスを一新し、利用者様のご要望に合わせてお選び頂ける 7 つのコースをご用意しています。

1 枚のマットの上で行うショートストレッチです。身体を動きやすい状態へ調整し、疲れを残さないよう身体をリセットします。会員の方は無料です。

さする、もむ、押すなどの痛みを伴わないボディワークを、専用ベッドの上で行います。身体の疲れを取りたい、リラックスしたい方におすすめです。

スタッフの手技で関節、筋膜、筋肉を整え筋肉と関節の動きを調整します。柔軟性向上、姿勢改善、関節痛予防をしたい方におすすめです。



事前にカウンセリングを受けて頂き、ご要望に合わせた貴方だけのメニューを作成します。

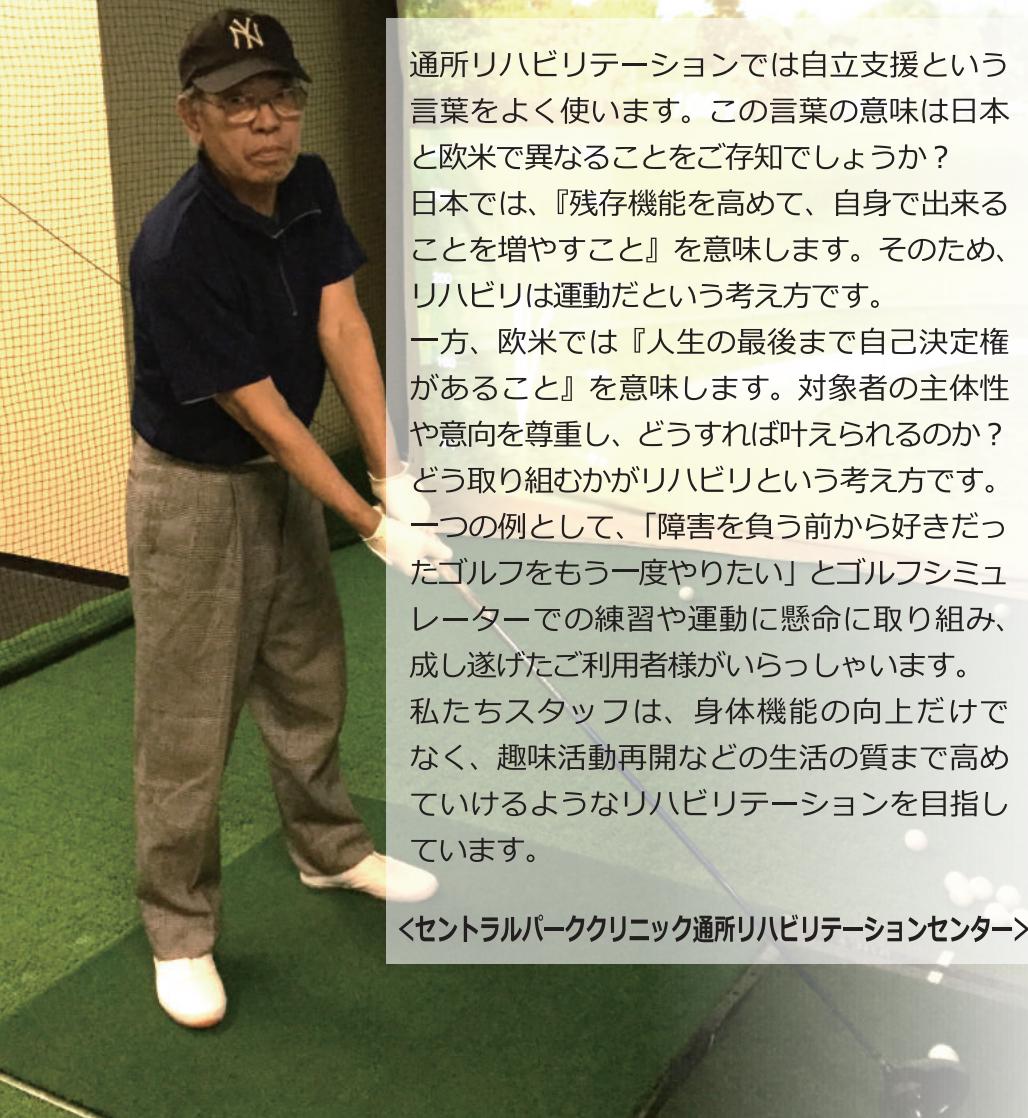
身体に浮き具を着け、水上に浮いて行うリラクゼーションです。陸上では味わえない深いリラックス効果が得られます。

専用のアセスメントシートを使用して原因を洗い出し、理学療法士の徒手療法や運動療法によって痛みの改善を図ります。

腸とその周囲をメンテナンスし、身体の調子を整えます。便秘、身体のだるさや冷えを改善したい方におすすめ。

ご希望の方には事前にカウンセリングを行い、ご要望や身体の状態に合わせた最適なコースをご提案いたします。
お気軽にサラマンダーまでお問合せ下さい。
皆様のご利用をスタッフ一同お待ちしています！

本当の 自立支援とは



体操で身体も心も元気！健康寿命を延ばそう!!

～安全に入浴するために～

日常生活動作（ADL）の中で、入浴動作は転倒事故が起こりやすく、自立を維持することが難しい動作です。

中でも困難となるのは、浴槽に入り出する動作と洗体動作です。

当施設では、利用者様に少しでも安全に入浴していただけるよう、日々実施している体操の中にまたぎ動作や洗体動作に繋がる動きを取り入れています。

<天神前通所>



膝を伸ばした状態で浴槽をまたぐように足を上げます。



タオルの両端をしっかり掴み、背中を洗うように腕を動かします。



足の横に浴槽の縁があるようイメージし、膝・股の関節をしっかりと曲げます。

ADLの維持・向上を目指し、ご家庭でも行えて楽しく続けられる体操をこれからも実施していきます!!

通所だより

【連載】⑥訪問リハビリテーションの現状と今後

訪問看護ステーションみやけ
(理学療法士 山田)

動作が不安定になることに加えて、住環境の変化や以前のように動けないなどの不安から、屋外に出ることができず、活動範囲が狭くなってしまうことがあります。今回は買い物へ行けるようになることを目標として、訪問リハビリテーションサービスを利用されている方を紹介させていただきます。

【訪問開始時の状況】

- 83歳女性 要介護1 左大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術施行)

平成29年3月上旬、転倒により左大腿骨頸部骨折の診断を受け県内のA病院に入院。人工骨頭置換術施行し、4月上旬にリハビリ目的にてB病院へ転院。5月下旬に退院され、有料老人ホーム入居となる。退院時の状態は、日常生活動作は概ね自立、屋内は歩行器を使用して歩行自立、T字杖歩行も実施されていたが、左右へのふらつきがみられ転倒リスクが残存している状態。屋外に関して、受傷前は週2~3回程度、自転車を使用し買い物へ行かれていたが、受傷後は恐怖心が強くなり外へは出られていない。

○本人の要望と目標

要望：しっかり歩けるようになり、買い物へ行きたい

目標：屋内外の歩行安定性向上、外出頻度の増加

【動作が安定していない要因】

- 歩行バランスが不安定
- 屋外歩行における不整地や段差での動作習得が不十分
- 以前のように動けないという不安、自信喪失

【実際の対応】



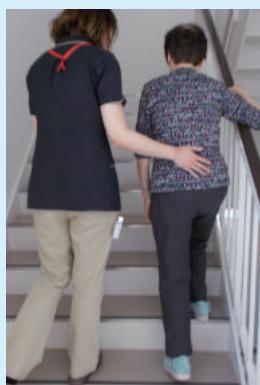
■ 屋内歩行

買い物での移動を想定し、T字杖を使用し荷物を持った状態での歩行練習を実施。



■ 自主トレーニングの指導

下肢筋力向上や耐久性向上を目的とした自主トレーニングを指導。



■ 階段昇降

段差昇降における動作手順を指導し、その手順を習慣的に実施できるよう反復練習の実施。



■ 屋外歩行

店内での移動、買い物時間を15~20分程度と想定した上で歩行練習を実施。



■ 屋外段差

屋外での段差昇降や不整地での歩行を実施し、注意点を指導。

【まとめ】

受傷後、歩行の不安定性や恐怖心により外へ出ることができなくなりましたが、「買い物へ行きたい」との希望が強くあり、これに向けたリハビリテーションを中心に実施しました。目標が明確となり、また利用者様の自信に繋がるような声かけをしながら実施することで、意欲の向上もみられ、自主トレーニングも熱心に実施されていました。現在ではタクシーを利用し週1回程度買い物へ行くなど、定期的な外出ができるようになっています。そのことが利用者様の自信に繋がり、「バスに乗りたい」との新たな希望も聞かれています。

今回の支援を通して、主体性を引き出すことで本人の生活意欲が向上し、その人らしい生活を再構築していくことの重要性を感じることができました。今後も活動範囲の更なる拡大を目標にリハビリテーションを提供していきます。

訪問看護ステーションみやけ
TEL : 087-812-5550

企画・発行
Miyake Medical Institute Group

一般財団法人 三宅医学研究所 広報委員会

〒760-0018 高松市天神前5-5

TEL : 087-831-2101 FAX : 087-835-1886

MAIL : zaidan@miyake.or.jp



facebook

home page

いいね”をお待ちしています!

一般財団法人三宅医学研究所

- 三宅リハビリテーション病院
- セントラルパークリニック
- 健康増進施設サラマンダー
- ケアプランセンターみやけ
- 訪問看護ステーションみやけ
- M M I パー キ ン グ

<http://www.miyake.or.jp>

